

淡路島の現状（竹資源）



近年、放置竹林が拡大傾向にあり、更なる増加の防止が課題。

＜淡路島内の竹林面積＞2000年：2,340ha → 2010年：2,660ha

【放置竹林の拡大により懸念される影響】

・水源かん養機能・土砂崩壊防止機能の低下

竹林は地表約30～50cmに根・地下茎が集中しているため、雨水が地中深くまで浸透しないことから、一般の森林に比べて保水能力（水源かん養機能）や土砂崩壊防止機能が低下



・生物多様性の低下

竹が密集することで林内が暗くなり他の植物が生育しにくく森林の種類組成や構造が単純化し、昆虫や鳥などの種類や数が減少するなど生物多様化が非常に低下

・里山環境・景観の悪化、獣害被害の拡大

竹の立ち枯れや倒伏が多くなり、人が竹林内に立ち入ることが困難になるため、管理が行き届かず、里山環境や景観が悪化

また、人の手が入らないことで野生動物のすみかとなり農作物の被害が拡大

＜参考＞市別の竹林面積比較（出典：日本森林技術協会）

市 名	竹林面積	県内 順位	市面積が占める 竹林面積割合	県内 順位
淡路市	1369.47ha	2位	7.42%	1位
洲本市	1032.22ha	3位	5.65%	2位
南あわじ市	258.39ha	13位	1.13%	22位
淡路島全体	2,660.08ha	—	4.50%	—
(参考)全県	11,775.96ha	—	1.40%	—